

コロナ禍での就業



手抜きをしないコロナ対策 藤本 泰孝

シルバー人材センターの紹介により学校校務員として7年間、精華西中学校に続いて、現在精華台小学校に勤務しています。コロナ禍となり学校での仕事内容にも変化があり、ふだん私たちが当然しなければならない手洗い、マスク着用はもちろん、三密を避けること、換気に注意することも必要です。また、蛇口の消毒のためにアルコールを利用しています。

このように、毎日の仕事に慣れることとコロナ対策を手抜きせずに徹底することが必要です。私たちの仕事が皆さんの役に立っているという自覚と誇りをもって日を過ごしたいと思っています。

自分の健康に気をつけることもたいせつだと思ひ、安全には注意しながら通勤にときどき自転車に乗ることもあります。また2名による交代勤務ですので、意志の疎通もたいせつなことです。

清掃をしているとき、先生・生徒から「いつもありがとう」と声かけをしてもらって、やりがいを感じています。元気であるかぎり皆さまの役に立ちたいと思っています。



手指が触れるところの徹底消毒 大石 真値子

センターから建具等の拭き取り作業のお話をいただきました。コロナウイルス感染防止のための拭き取り作業で、午前と午後の1日2回を数人で実施するというものです。

未知のウイルスですので最初はお出かけるのにも不安を感じましたし、ウイルスがどのように付着するのかもわかっていませんでしたが、とにかく手指の触れるところ（テーブル、椅子、ドア、スイッチ、水道のハンドル、窓枠窓鍵、ボールペン等の筆記用具等々）をくまなく拭き取りました。椅子に座るときはどの部分に触れているのかを確認するため、家で実際に注意深く座ってみたりもしました。

不特定多数の方が触れるところの消毒を仕事とさせていただいているからには、「今、この時点ではこの消毒は十分にできている」と自信をもっております。

コロナ禍で世の中や生活がすっかり変わってしまいました。外出時のマスクは習慣となり、どこに入るにも手指消毒、それももうすぐ2年が経過しようとしております。とはいえ、このコロナトンネルを抜けて以前の生活に戻れるときがきつとくるのではないかと思います。それまでは、同世代のシルバーの皆さまとのふれあいを楽しみながら元気に就業したいと思っています。



コロナの消毒にあたって！ 阪口 美佐子

2月頃から小学校のコロナ消毒に携わり、お世話になっています。

どの子どもさんもマスク着用で、今年の暑い夏を乗り越えました。

マスクをはずせない学校生活は想像以上に大変で苦痛だったと思われれます。

子どもさんたちが触るところをできるだけいねいに拭いています。

アンサンブルクラブの皆さんの「こんにちは」「ありがとうございます」の大きな声に元気をいただいています。

一日も早くコロナが収まり、マスクをはずせる生活が戻ってくることを切に願います。



コロナ禍の就業で苦労を感じたこと 岡西 武司

新型コロナ発見されたのは2019年12月…世界中の多くの人に感染し、多くの命を奪う恐ろしいウイルスが蔓延してきました。当初は高齢者に始まり、最近に入り低年齢層にシフトしています。ワクチン接種が進み効果が表れつつあるものの、まだまだ十分注意し無理せず3密を意識し、コロナ禍の中さまざまな制限をクリアし、新しい生活様式を築いていかなければならない時代に変化してきました。

※コロナ感染拡大（緊急事態宣言）より、小学校での日々の業務内容に校内消毒作業要項が出来ました。

- ①手指消毒（ヒビスコール）
- ②手洗い場消毒（エタクリン）
- ③トイレ消毒（ピュリファン）
- ④教室換気（アルサーワ）

など、広範囲であるため、最初は16、000歩歩き、階段を昇り降りし、マスクをしての夏場の校内は暑く堪えました。自分自身高齢者であり、感染しては多く児童、先生に迷惑をかけてしまう恐怖もあり、家庭に持ち帰る（見えない敵）の恐怖で、今自分のできる感染対策…手洗い、マスク、大きな声を出さないこと、適度な距離を保つこと、飛沫感染に注意した毎日です。会員の皆様も自分自身で感染対策を取り不安になりすぎず、頑張ってください。